



Alter Weekly Order Catalogue

ほんものを たべよう

2025.9月4週号

提出日

9/ 火 水 木 金
16 17 18 19

配達日

9/ 火 水 木 金
23 24 25 26

翌々週分配達日

9/ 火 10/ 水 木 金
30 1 2 3

オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

○「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。

○「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。

○原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。

○プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

米

幻の米品種「亀の尾」「朝日」、自然栽培米です

生きものたちいっぱいの田んぼが自慢です

めだかの散歩

文責 西川 榮郎(オルター 代表)

32年間自然栽培

江戸時代に大井川渡しがあったとして有名な大井川、その河口東岸に位置する静岡県焼津市で、「めだかの散歩」杉本 一詩(ひとし) 代表は、1993年から32年間自然栽培でお米を栽培しています。

農薬、化学肥料はもとより、外部からの有機肥料も入れていません。種子消毒もしていません。お米は肥料で味付けされたものではなく、お米本来の味がします。杉本さんがこれまで一番うれしかった言葉は食べた人からの「魂に訴えるおいしさを感じる」でした。杉本さんのお米は冷めてもおいしいのです。

今年、オルターへは数々のブランド米のルーツとなっている、幻の飯米「亀の尾」と、岡山県で生まれた希少品種、コシヒカリやササニシキのルーツとなった幻の品種「朝日」を出荷していただけます。

野生のカモが応援

田植えは風通しや、光がよく当たること、病気を防ぐ効果を考え、1～2本植えです。稲は最



初はゆっくりですが、やがてしっかりと分けつていきます。自然の流れ、動きに任せた栽培、それは杉本さんのこだわり。田んぼの稲の色は自然栽培らしい淡い緑色です。過剰な肥料がない証拠です。

田んぼには野生のカモが訪れ、奇しくも合鴨農法になっています。田んぼから生まれた稲ワラは田んぼに戻しています。

多様な生きものたちが元気です

杉本さんの田んぼでは生きものたちが実に多様です。メダカやドジョウ、カエルがにぎやかです。最近は珍しくなったホウネンエビも姿を現します。アメンボ、トンボ、バッタ、チョウ、クモ、カマキリ、イナゴ、テントウムシ、カメムシ、鳥たち(シラサギ、アオサギ…)、モグラ、スッポンも元気です。やっかいものジャンボタニシもいっぱいいて稲の苗に被害を与えます。私からは、ミジンコでジャンボタニシを制御する、オルターのお米の生産者、水の子会の技術の情報をお伝えしました。

がんばる米農家

杉本さんの水田は、トータルで4ヘクタール弱の面積がありますが、実に36枚にも小さく分かれて点在していて、栽培効率が悪く、栽培コストに苦労されています。こんな米不足の時代にも



めだかの散歩の杉本 一詩代表

かかわらず、県はいまだに実質的減反政策をやめようとはせず、杉本さんのようながんばる農民を応援しようとはしていません。

杉本さんは田んぼの原風景を取り戻したいのです。

六次化で活路を

杉本さんは若いころ、介護職や広告代理店で働き、新規就農しました。最初から無農薬、無肥料の米作りを志したわけではありませんでした。農業をやっていた父が急に亡くなり、仕方なく始めた農業。ずぼらで農薬を使わなかった田んぼの大量に発生したカエルたちに無農薬の意味を教えられたのです。それから農薬を使わない農業を本格的に学んでいったのです。全国12カ所の田んぼを訪ね歩きました。「水田環境鑑定士」の資格も取得しました。

杉本さんは地域農業の活路を見出すため、六次化で農家が生き残っていけるようさまざまな米加工品の開発を志しています。オルターとして今後それら六次化の試みに協力させていただく予定です。

お米の乾燥、もみすり、袋詰めは自社で行っています。乾燥は発芽毒対策ができる生きた玄米を守るため、乾燥温度の適正化に協力いただいています。

オルターマフィンの原料米

杉本さんのオルターへのご紹介はメロディアンの大久保副社長からです。オルターカタログ2024年6月3週号でご紹介した「山田スペシャル」ケーキ、マフィンの原料米として使用している米粉の生産者です。また、オルターカタログ2025年7月3週号で紹介の農薬不使用ぶどう、いちごの生産者、杉並スマートファーム amit を杉本さんからご紹介いただきました。

めだかの散歩の 自然栽培米

☆☆☆

●品種

亀の尾、朝日

●防除

農薬の使用ありません

●施肥

化学肥料、有機肥料の使用ありません